

せな ひめ
瀬名姫の、お母さんの話しです。

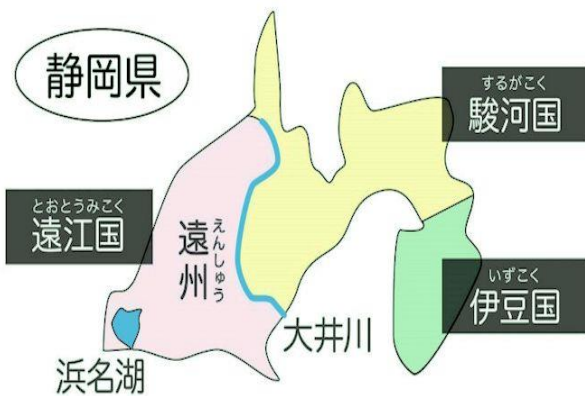
せな ひめ たんじょう いえやす ようしょうき
「瀬名姫の誕生と家康の幼少期」

とうとうみのくに しずおかけん せいぶ おおいがわ いせい いいの や みたけ じょう いまがわぐん ひ じょうけん
遠江国（静岡県西部：大井川以西） 井伊谷 三岳城から、今川軍を引きあげる条件として、
ひとじち だ ひとじち じょうしゅなおひら むすめ みな せな はは えら
人質を出すことになった。その人質として城主直平はひとり娘の水名（瀬名の母）を選びました。

「水名すまぬ、・・・」わびる父を見て、水名は「いやです」とは言えませんでした。水名は今川に

ひとじち するがのくに すんが な せな
人質になるため、駿河国、駿府へと泣きながら。むかいました。

三岳城 跡



すんが い みな うつく いまがわ けとうしゅ よしもと そくしつ むか
駿府に行った水名は、その美しさが、今川家当主、義元にとめられ、側室に迎えられることになりました。今川は井伊の敵だったという思いがあり、どうしても義元に打ち解けることができ
ません。「ただの人質ではなく、慰み者にされるなんて・・・」そんな自分が哀れで哀れで・・・井伊
家のために我慢するしかありませんでした。ある日、水名は義元之母（寿桂尼）に呼ばれ「水名殿、
あなたをぜひ嫁にほしいという方がいるの、わたくしの養女になって、その方に嫁いでくれないか
しら」水名の相手は、今川の瀬名氏三代目氏俊の弟の氏広でした。氏広は関口家の養子（他人の
子どもを自分の子どもにすること）となり関口刑部親永と名のりました。その後、天文11年（1
542）水名は、瀬名館で玉のように美しい女の子を生みました。幼少名「おふく」その後生ま
れた地にちなんで瀬名と名づけられた「この子は美しい子になるだろう」と我が子を抱いた親永は
嬉しそうでした。その様子を見ていた水名は「この人に嫁いでよかった」とあらためて思いました。
その後、親永は、持舟（用宗）城、2万6千石の城主になりました。

まつだいらたけ ちよ いえやす ひとじち すんぶ き うわさ みかわ
松平 竹千代 (のちの家康) が人質として駿府に来たことが噂になりました。「三河のこせがれが
 ひとじち き いっせんかんもん おだ う やつ ひやくかんもん
 人質として来たそうだ」「あの一貫文で織田に売られたという奴か」「いやいや、百貫文だった
 そうだ・・・」「どっちでもいいが、義理とはいえ、身内に裏切られたわけだろう」「ああ、あわれだ
 よな」この話題で持ち切りでした。この噂は、瀬名の耳にも届いてきました。「百貫文で売られ
 た？それに身内に裏切られたって・・・かわいそうな子ね」竹千代が駿府に来てから1年後の天文
 10年の元日、毎年恒例の今川館での祝儀からかえってきた父の親永から、こんな話を聞きました。
 ねん がんじつ まいとしこうれい いまがわやかた しゅくぎ ちち ちかなが はな き
 10年の元日、毎年恒例の今川館での祝儀からかえってきた父の親永から、こんな話を聞きました。
 かしん よしもとさま で ま こ
 家臣たちが義元様のお出ましを待っているときに「あれは、どこの子だ？」「もしかして、
 まつだいらきよやす まご きよやす まご りりしい かお
 あれが**松平 清康の孫**か」「いやいや清康の孫ならもっと、凛々しい顔をしておるのではないか」な
 くちぐち うわさ たけ ちよ た えんざき で しょうべん
 どと口々に噂していると、竹千代がすっと立ち、縁先に出ると、いきなり小便をしはじめたと
 み かしん よしもとさま ごうたん どきょう
 いうのです。これを見た家臣たちは、「いつ義元様がおいでになるかわからないのに・・・」「豪胆(度胸
 ゆうもう かかん ゆうき おも じつこう
 がすわっている)な子だな」「ああ あれこそ、まさしく勇猛果敢(勇気があり、思いきって実行す
 し きよやす まご かんしん はなし
 る)で知られた**清康の孫**だ」と関心して、ひそひそ話をやめたといひます。

「皆の前でそんなことを」母の**水名**と**瀬名**が顔をしかめると、親永が笑いました。 臨濟寺



わたし けっこん あいて まつだいらもとのぶとの かわ もの ひとじち みかわ
 「私の結婚相手は、どなたですか?」「**松平 元信殿だ**」「ええっあの変り者の人質の三河のこせが
 れ?」がっかりする瀬名に、親永は、「元信殿は将来有望な若者だ子どもの頃から義元様の師でも
 りんざいじ だいがんせつさいさま おし う そだ あたま こ はな よしもとさま き はな
 ある臨濟寺の太原雪斎様の教えを受けて育ち、頭のいい子」だと話し、義元様が決めたと話し、
 おじうえ さま みこ かた ほほえ み ちかなが むね
 「伯父上様が見込んだ方なら・・・」と微笑んで見せると、親永がほっと胸をなでおろしました。

こうして瀬名が元信(家康)に嫁ぐことが決まったのです。

瀬名姫通信 : 藤咲あゆな「戦国姫 瀬名姫の物語」より
 作成: 編集 歴史よもやま話「193」 伊久美勝久 TEL 090-6583-2945